

2 高校における国語の基礎学力の現状

(1) 調査目的

高校における国語の基礎学力を明らかにし、国語の教科内容と構造改善の資料とするため、学力の現状を「生徒の実態」と「教師の生徒の国語力に対する意識」の両面から調査分析することを目的とする。

(2) 調査の種類と対象 (表1)

種類	対象
福島県標準学力テスト (中3用, 福島県教育センター編)	普通高校第1学年生徒(5校, 各1学級)
生徒の国語の能力に対する教師の意識調査 (高等学校)	上記, 5校の全職員
生徒の国語の能力に対する教師の意識調査 (中学校)	上記, 5校の学区内の国語担当教員

(3) 調査対象校 (表2)

A 高校	B 高校	C 高校
男女共学 (就職)	1 男子 (進学・就職) 2 女子 (進学・就職)	1 男子 (進学) 2 女子 (進学)

- A 高校学区内中学校 ————— 8校
- B₁(男) 高校学区内中学校 ——— 9校
- B₂(女) 高校学区内中学校 ——— 13校
- C₁(男) 高校学区内中学校 ——— 17校
- C₂(女) // ——— //

(4) 診断的性格を帯びた福島県標準学力テスト問題

(表3)

言語要素			
領域	問題のねらい	問題例等	数
	1 漢字を読む		
	(1)訓で読む	慎む, 妨げる	7
	(2)音で読む	猛然, 会釈	11

言語要素			
領域	問題のねらい	問題例等	数
文 字 力	(3)類似形の漢字や同じ字の音訓等を読みわけける	勸と勤, 成就と編成, 臨時と臨む	7
	2 漢字を書く (1)訓で読む漢字を書く	クワ(詳)しく	5
	(2)音で読む漢字を書く (3)同音異義語や類似形や類義語の漢字を書きわけける	ケイゾク(継続) 述と伸, 減と減, 寝と復と腹, 寝と眠	7 6
表 記 法	3 かなづかい, 送りがなを正しく使う	「みづから知らず」, 「生じて」 「起こした」	3
	4 句読点を適切に使う	作文(150字から200字)	1
こ と ば の き ま り	5 助詞, 助動詞の正しい使用, 文の組み立てのは握	「行く <u>そう</u> だ」 「歩か <u>れる</u> 」 「や <u>って</u> み <u>よう</u> 」 「人通り <u>の</u> ない」 「 <u>そ</u> ういうこと <u>ほ</u> ど〜」と同じ用法を指摘する。 文の中の助詞, 助動詞の使用上の誤まりを指摘する。 「 <u>味</u> わ <u>い</u> が <u>い</u> っ <u>そ</u> う深めるため <u>に</u> は〜」 文章の文の連接関係を述べる。	11
	読 む		
	1 語句の意味をは握する。	専念する, 補足する, 暗示する 着眼点, もどかしい, おびた だしい, いぶかし	12